



リーベル利用者さんの声 ～現在 仕事をがんばっています！～



大学卒業後に就職で悩んでいた所、就労移行支援という制度があるのを知り利用を開始しました。最初は週2回ほどの通所から始めて、体力をつける運動や、コミュニケーションの訓練を経験しました。作業訓練で長時間同じ作業をすることができるようになったり、人と接することや会話が増えて会話に慣れるようになったりしたことが良かったです。体力やコミュニケーションに自信がついてきた頃に、就職活動を始めました。職員が面接の練習をしてくれたり、面接についてきてくれたり、履歴書を添削してもらったり等フォローしていただき、就職することができました。

朝は早いですが、自分で起床して出勤しています。仕事は手順を覚えたり、時間通りに終えることが大変ですが、現在もフルタイムで働いています。自分で言うのは恥ずかしいですが、職場では上手くコミュニケーションを行い、先輩や同僚と仲良くやれているように感じています。就労移行支援で得た経験が仕事で活かせるように感じています。



仕事を1年以上安定して続けられており、貯金もできていることもあって、誕生日と日頃の感謝の気持ちを込めて母へプレゼントを送ろうと思っています。母には子供の頃から今までとてもお世話になっていて、前から何か恩返しできないかなと考えていました。

母はよく昼寝をするので抱き枕と入浴剤を選びました。
喜んでくれるかな？ (H・K)



～色、咲かせるプロジェクト～

～まごころ繋がるアート展～を開催しました！



たくさんの方の応援の声をいただきました

「色、咲かせるプロジェクト」とは、八女地区の障がい児・者によるアート作品の展示やオリジナル作品等の販売を行うプロジェクトの名称です。その第1弾として、まごころ繋がるアート展を5月26日～6月13日の期間、八女市役所1階の展示スペースで開催しました。期間中、八女地区にある障がい者施設や放課後等デイサービス、デイケア等を利用している皆さんが制作した絵画や手芸品などを展示しました。初めての開催でしたが、沢山のの方に足を運んでもらい、多くの感想もいただきました。今後も様々な場所で開催しますので、ぜひ遊びに来てくださいね！！

編集後記
「リーベル利用者さんの声(上記記事)」のHさんの担当相談員として3年ほどお付き合いさせていただいています。仕事も安定され、サービスは終了しましたが、今回「母に何をプレゼントしたらいいかわからない」と言ったお声から、プレゼント選びを一緒に行いました。喜んで下さるといいなあ～ (A・Y)



リーベル通信



発行責任者:NPO法人 リーベル
電話:0943-22-2610
FAX:0943-22-2664

住所:八女市本町17-2
E-mail:liber-yame@marble.ocn.ne.jp
URL:http://liber-yame.net

リーベルネットワーク全体研修会

『ピアサポートを考える ～当事者から見る障がい福祉～』

八女市の福祉計画の中にも「ピアの育成」が掲げられ、地域活動支援センター『かたろい』ではピアサポーターの育成に取り組んでいます。現在、視覚障害のピアサポーター1名が活動をしており、失明された方の今後の生活の不安、白杖の使い方などのご相談を受け、対応されています。

『ピア(peer)』とは英語で仲間、同僚という意味で、同じような立場や境遇経験等を共にする人たちの表す言葉を指し、『ピアサポーター(peer supporter)』とは、自らも障害や疾病等の経験を持ち、それらの経験を活かしながら、対人援助の現場等で働き、仲間(ピア)のために支援やサービスを提供する方のことを言います。当事者ならではの、当事者しか分からない感覚や思いなど、寄り添われている姿を見ると、改めてピアサポーターの力の大きさに感動しています。今後も、地域で多くのピアサポーターの人材が増えて欲しいと願っています。その為には私たちがまず、『ピア』とは何か学ぶことから始めることが必要と思い、研修会を企画いたしました。

6月20日、『かたろい』ピアサポーターの天津史志さんを講師とし、ピアサポーターとは何か？そして、自身の経験を踏まえてリカバリーストーリーを交えて講演をしていただきました。

天津さんは3年ほど前からピアサポーターとして活動を始めていますが、自身も10年ほど前に病気ににより視力をほぼ失い、会社を退職したり車を手放さざるを得なくなったりして生活が一変し、精神的に落ち込み自宅に引きこもった経験がありました。人生の転機となったのが職業訓練で同じ障害や境遇の『ピア』と出会ったことでした。明るく生活を送っている『ピア』と訓練を共にし、『ピア』がお互いに経験を伝え合ったり分かち合ったりしており、その光景に人生を諦めかけていた天津さんは人生の光を感じたそうです。『ピア』だから出来ること、理解できることを感じ、ピアサポーターとして活動したいと考えたきっかけになりました。

障がい福祉分野でもピアサポーターの存在は、専門職による支援では得られない安心感や自己肯定感を育むことに繋がると考えられ、ピアサポーターの関わりに期待されています。

研修会後は昨年同様にべんがら村で懇親会を開催しました。八女地区の障がい福祉事業所等から50名が参加され、楽しい時間を過ごされていました。

～障がい者が虐待を受けたり、受けている所を目撃した際はお電話ください～

八女市障がい者虐待通報ホットライン ☎090-2580-0294 (24時間・365日の対応)



「令和7年度リーベルネットワーク合同研修会」を開催

8月8日(金)、八女市岩戸山歴史文化交流館にて八女市教育委員会と合同で研修会を開催しました。当日は学校関係者23機関(教育委員会含む)30名、福祉関係者14機関23名、合計53名の参加となりました。

前年度、ちくご地域ユースサポート不登校支援部会の水田夫妻にご講演いただき、「もう一度聞きたい」「もっと話を聞きたかった」と多くの声がありましたので、今回、「学校に行きづらい子の見守りと進路」というテーマで再度水田夫妻にご講演いただきました。

学校生活の中で「普通とはなんだろう」と普通の定義を説明され、親や自分たちは暗黙のうちに「扱いやすい子ども」のことを「普通」と考えているのではないかと。また、以前は学校に行くのが当たり前で「学校に行かない」という選択肢や「学校に行かない自由」は子ども達にはなかったのではないだろうか。不登校とは、子どもが「嫌なことを拒否する権利」「嫌な場所から逃げる権利」であり、学校に行かない選択肢は子ども達の「自由が守られた」と言い換えることができる、等のさまざまな体験や視点からお話いただきました。

参加された方々からも「誰が何を言っても考えても良いとは思いますが、その自分の考えや発言を相手へ押し付けて、相手を自分の力で変えてしまおうとするのは危険ではないか」「一番不足しているのは人の心の余裕ではないか」「不登校の子どもは学校に行けなかった時期に自分はどのような人間かをよく考えているという言葉が印象に残った」などの声がありました。

今回も猛暑の中、参加していただいた皆様と今後もつながり連携を図りながら多くの子ども達が「普通」という枠にとらわれず成長していけるようにサポートしていきたいと感じています。



～八女市障がい者等自立支援協議会の開催～

今年度の1回目となる八女市障がい者等自立支援協議会が、6月17日に開催されました。まず始めに、基幹相談支援センターやリーベルネットワーク会議の各部会、地域活動支援センターかたろい、地域生活支援拠点センターすいれんから昨年度の事業および活動報告を行い、ネットワーク会議の各部会については、今年度の活動予定についても報告しました。その中では、課題解決型部会として「精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム」について考えていく部会をスタートさせることに承認していただきました。

前回の協議会でも検討した「障がい児サービス」について、新設事業所の選考についての基準などの整備が必要という意見をいただいていたので、今回継続して要件等について協議を行いました。今年度を目途に公募の予定です。

その他、委員からの意見として、「各部会の活動においては障がい当事者やその家族の意見を入れていくことを求めたい」といったものや「医療的ケア児の災害時の避難支援についても地域として考えていってもらいたい」といった意見もあがっていました。

その他として、ハローワークから八女市の障がい者雇用の状況について報告をいただき、令和6年度の障がい者雇用の登録者が169名、半数が就労継続支援A型の利用者であること、そこからのステップアップが進まない報告があり、10月から始まる「就労選択支援」に期待しているとの話をいただきました。地域としても「就労選択支援」について就労事業所等との意見交換を行っています。



第60回日本精神保健福祉士協会全国大会 第24回日本精神保健福祉士学会学術集会



～参加報告(運営委員として)～

8月22日～23日の2日間、日本精神保健福祉士協会全国大会に運営委員として参加し、学ぶことができました。今年は福岡県北九州市で60回の節目となる大会が開催され、全国から約1,200名の方が来福し、精神保健医療福祉の未来を共に創り上げる「未来共創～ここから変わる、福岡から変える～」という大会テーマのもと、精神保健福祉士に求められている役割や使命とは何なのか？将来を考えさせられる大会でした。

私自身初めての大会参加で、プレ企画から様々な講演、市民公開講座、テーマ別の分科会等で内容が盛りだくさんであり、参加者の数にも圧倒されていたこと、さらに、運営委員の役割を全うすることで頭がいっぱいでした。

大会を通じて、発表者の大会に向けた意気込み、参加者の学びに対する意欲を強く感じるとともに、私自身も各種プログラムを拝聴したいという強い気持ちを感じるようになりました。自身の不勉強もありますが、知らないことを知るに変えることの楽しさ、自らの意思で学び続けることの大切さを認識することができました。自己研鑽を含め、今後も積極的に協会の活動に参加していきたいと思っています。(T・S)



ねんちようじ ～年長児の保護者向け説明会～

5月20日「小学校入学に向けての説明会」を開催しました。
「来年4月から小学校入学。学校？クラス？放課後は？どうしよう」年長さんの保護者の方は、毎年このような心配を抱えながら1年間を過ごされます。八女市障がい者基幹相談支援センターや計画相談事業所にも同じ相談があり、初めて説明会を開催しました。参加者は、保護者14名、関係機関24名、計38名でした。内容は各担当者(教育委員会、学童保育、基幹センター、療育等支援事業)から説明をしました。

- ① 入学までのスケジュール説明。学校(特別支援・地域)・クラス(通常・特別支援・通級)の特徴や利用人数などの報告。
- ② 一般学童の申し込みや、支援が必要な児童への対応。
- ③ 放課後等デイの利用。
- ④ 療育等支援事業の活用。



少し詰め込み過ぎた感じもありましたが、説明会后、保護者同士で話をされたり、各担当者へ確認されたり、特別支援教育室の個別相談へ申し込みをされたり、進路を考える第1歩にはなったと感じました。当日は保護者の他、計画相談の方も多数参加いただき、共通の情報を共有できたことも、今後の支援に活かせると思います。毎年定例開催を目指し、保護者が不安なく、子どもの進路を選択できるように取り組んでいきます。